

46 ひらつかの風

No. 46 号
2025 年 9 月号
(令和 7 年)

ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちや、これから活動しようとしている人たちを応援します。



CONTENTS

- P.1平塚市情報 第7回「平塚市みんなのまちづくり事例」募集
- P.2団体レポート『平塚ゆかりの作家 中勘助を知る会』
- P.3センターレポート
- P.4センター情報・平塚市情報

団体 レポート

～ひらつかの100年を読み解く～ 『中勘助を知る会』の歩みと挑戦



平塚市情報

第7回 平塚市みんなのまちづくり事例募集

募集期間 ● 令和 7 年 8 月 15 日 (金) ～ 10 月 10 日 (金)

市民活動団体や自治会・町内会などの地域で活動する団体、事業者、大学等が市内で実施する、地域の課題や困りごとを解決する活動・取組みを募集します。

応募いただいた取り組みはすべて、「平塚市みんなのまちづくり事例集」に掲載し、PRします。また、「年間大賞」を平塚市市民活動推進委員会で選定し、表彰します。

応募用紙や詳しい応募条件は、市ウェブサイトやチラシをご覧ください。

※右記の応募フォーム(二次元コード)からも応募できます。

お問い合わせ先 ◆ 平塚市協働推進課 市民協働担当 電話 ◆ 0463-21-9618



● ひらつか市民活動センターのホームページをご活用
ください!!



センターから発信する様々な報告・情報を
右記の二次元コードから見られます。



センター情報



助成金情報



団体イベント情報



センター開催報告

団体
レポート

～ひらつかの100年前を読み解く～ 『中勘助を知る会』の歩みと挑戦

かつて平塚に暮らした作家・中勘助。その文学的遺産を掘り起こし、地域文化として次世代に伝えようと活動するのが「平塚ゆかりの作家 中勘助を知る会」です。資料整理から始まった活動は今や市民を巻き込む文化活動へと広がりを見せています。代表の瀬尾真志さんに、活動の背景や思いを伺いました。



▲『中勘助を知る会』の皆さん

■ 文学資料の整理から市民活動へ—団体発足の経緯

「平塚ゆかりの作家 中勘助を知る会」は2013年に発足しました。契機となったのは、平塚市博物館に寄贈された中勘助に関する各種資料を整理・デジタル化する作業に携わったことです。

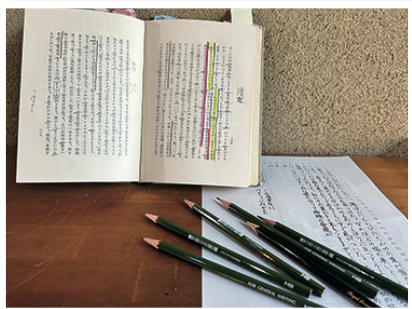
この中で「中勘助が平塚で暮らしていた」という事実が改めて光が当たり、当時の会員の間で「この文学的価値を地域資源として活かし、広く市民に伝えたい」との思いが共有されました。そこから市民活動団体として独立したのが、現在の会の始まりです。

■ 中勘助を「書いて」味わう—独自の復刊プロジェクト

同会の象徴的な活動の一つが、『しづかな流』の手書き写本プロジェクトです。この取り組みは、参加者が中勘助の文章を鉛筆で一字一句書き写し、写本を制作するというもの。見開き2ページを1セットとし、参加者がそれぞれの思いで担当箇所を決めています。

文字をなぞることで、作品の世界に身体ごと入り込み、読んで理解するだけではなく、書くことで“味わう”文学体験ができるそうです。写す文字の中に表現のリズムや言葉の選び方が現れ、それが読み手の感性に直接響くといいます。

この活動は月に1回、写本会というかたちで開催されています。写本後には感想を述べ合い、時には中勘助にまつわる逸話や作品背景を学ぶ時間も設けられています。手書きで文字をつづる静かな作業と、参加者同士の語り合いが、自然と文学を通じた交流の場となっているのです。



『しづかな流』の写本と、写本作業に皆さん勤しむ



■ 補助金を活用した文化の発信

同会は、平塚市の「市民活動推進補助金(発展コース)」を活用し、「中勘助平塚居住100年記念事業」を展開しました。この記念事業では、案内看板(桃浜公園)の設置をはじめ、記念朗読会やコンサートの開催、記念誌『しづかな流』の制作と配布など、様々な活動が実施されました。

なかでも記念誌は600部を発行し、市内の図書館や学校などに配布。文学に関心のなかった層にも存在が知られるきっかけとなり、文化資産として再評価されました。補助金の活用により活動の幅が広がり、現在は100冊の写本完成に向けた活動が進行中です。



◀中勘助の散歩の足跡を辿りまとめた地図

■ 次の世代との接点を広げるために

同会のもう一つの大きなテーマが『次世代への継承』です。文学の世界は年齢層が偏りがちですが、同会では若い世代への働きかけにも意欲的に取り組んでいます。昨年度は市内の中学生が写本に参加する機会もあり、「中勘助」という名前を初めて知ったという感想も寄せられました。

今後は地元高校との連携による文学ワークショップや、若者向けの読書・朗読イベント、さらには「中勘助文学賞」の創設など、幅広い世代が関われる新たな取り組みを模索しています。

文学の世界に正解はなく、だからこそ若い人たちが自分の感性で中勘助を読み、感じたことを表現してくれることに期待を寄せていました。

■ おわりに

一人の作家との出会いをきっかけに始まった「中勘助を知る会」は、「とにかく平塚が好き」という会の皆さんの郷土愛を原動力に、地域の物語を掘り起こし、文学を通じてまちの記憶を次世代へと静かに確かにつないでいます。

センター
レポート

第3回 支援者間交流会『まるごと支援の必要性を学ぶ(第2弾)』
7月10日(木)「子どもを支える連携支援について」を開催しました。

現在、地域社会において「高齢」「障がい」「子ども」「生活困窮」「引きこもり」など、様々な問題が複雑に絡み合い、顕在化しています。現行の制度は対象者別に整備されていますが、複合化したケースにおいては分野を超えた支援体制が求められます。

今回は「子ども」をテーマに、複合的な課題の中に存在する子どもの課題をどのように発見し、連携しながら、解決に導いていくか、各分野の支援者・関係機関の皆さんと一緒に考えていきました。

講師 ● NPO法人 親がめ 理事長 塚原 泉氏
参加団体 ● 【子ども関連】 NPO:6 団体、行政関連:7 団体、
保育園:1 団体、
【高齢者支援】 民間:2 団体、行政:1 団体
【訪問看護事業所】 4 団体
【障がい者支援】 2 団体
【就労支援】 2 団体 参加者:計 35 名



塚原さんからは、横浜市の多機能型地域子育て支援拠点を受託し(19年目)、区と共に協働運営しているご自身のご経験からのお話と、横浜市における子育て施設間・多職種間・公と民の連携事例をご紹介いただきました。テーマは“子育て・子育て”を軸とした、地域力の創出。子育て支援施設が地域との関係を育み、様々な場と機会を創っています。ポイントはごちゃまぜの空間づくりと、不完全な場をつくり、来る人をお客さんにせず、参加の機会を作り、地域のみんなが関われる参加型の拠点、とのことです。塚原さんは、市の総合計画や子育て支援計画等をしっかり読み込み、疑問があった場合は質問事項を取りまとめて、担当課に聞く・対話の場を設けてもらう、など積極的に行動することが重要と話されました。

講義の後にはテーブル毎に“すごろくワーク”を実施しました。すごろく内のマス目は支援者間交流会用のテーマを設定した、オリジナルのすごろくワークです。会場で大きなサイコロを振り、止まったマス目は5か所「私って実は○○名人なんです」「今の仕事・活動のツヨミはココだ!!」「私の施設、

機関、団体、○○はこんなコトをするところです♪」「これは♡うまかった、よかった、よろこんでらえたケースorコト」「支援団体同士のネットワークつながりづくり1番大切なコトはなんだろう」。各テーブルのすごろくシートには皆さんの意見やアイデアがいっぱいに!それぞれの所属している団体や機関、普段の活動や仕事、困った事・やりがいについてを話し、共有する時間となりました。平塚の地域の力、つながる力、連携する力を改めて感じ、本日の支援者間交流会にご参加の皆様が、同じテーブルで顔を合わせ、同じ方向を目指していく、そんなスタートラインが見えた会となりました。

次回、第4回支援者間交流会の開催に向けて既に準備を始めております。テーマは「社会参加支援について(仮)」です。詳細が決まり次第センターHP等でお伝えいたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

「夏休みこどもわくわくフェスタ 2025」 開催報告

7月26日(土)10:00~14:30、「夏休みこどもわくわくフェスタ」を開催しました。
当日は1階の崇善公民館と2階のひらつか市民活動センターの全館を使用し、15団体が出展しました。
近隣学区をはじめ、市内各地から延べ1634名にご来場いただきました。

自分だけの
竹のおもちゃ作り



大盛況!
崇善かるたの色付け
体験



今回も平塚学園
インターアクトクラブより
5名の生徒さんが
ボランティアとして当日の運営を
お手伝いしてくださいました。
暑い中、朝早くからお集まり
いただいた出展団体の皆様、
ご来場いただいた皆様、
本当にありがとうございました。

ボールを投げて得点を競う「ラダーゲッター」



身近なものを使って
実験してみよう!!



災害時に役立つモノを釣りあげよう!



出展団体一覧 15団体(敬称略・出展番号順)

- あいあいリトミック ● ボーイスカウト平塚市連絡協議会 ● おもちゃの病院ドクターくるりん
- ひらつか災害ボランティアネットワーク ● NPO法人 フラワーセラピー研究会
- ガールスカウト神奈川第23団 ● 親と子の寺子屋ふれあい自遊塾
- 湘南ひらつかマジシャンズ ● 崇善地区社会福祉協議会 ● ママぎゅっと ● 竹遊会
- ひらつか防災まちづくりの会 ● 湘南日本語会 ● (-社) OHANA ● 平塚地区 BBS 会

センター情報

●団体活動にお役立てください!

市民活動団体のための広報講座(連続3回)

“伝える広報”から“伝わる広報”へ。団体のビジョンとミッションを再認識して、広報の基本を学び、具体的な広報戦略を立てましょう。最終回は発表会形式で開催予定です。

日時 ● ①10月5日(日)
②11月30日(日) ①②は10:00~12:00
③2月or3月に開催

場所 ● ひらつか市民活動センター

講師・アドバイザー ● 北原 まどか氏(認定NPO法人森ノオト理事長)

定員 ● 先着10団体(参加無料)



みんなを楽しく巻き込む 活動拠点づくり講座 (タイトルは変更の可能性があります)

活動の拠点をどのようにつくり、運営していくのか?人が集う場としての魅力的な拠点づくりのエッセンスを、事例紹介を通じてお伝えします。

日時 ● 12月13日(土) 13:30~15:30

場所 ● ひらつか市民活動センター

事例紹介 ● にじカフェ代表 錢坂 則子さん、
わってらか代表 五十嵐 敦子さん

定員 ● 先着20名程度(参加無料)



「TOKAI グローカルフェスタ2025」へ出展します

ひらつか市民活動センターは東海大学で開催されますTOKAI グローカルフェスタに今年も出展します。

たすけ愛文庫やNPO相談などいつものセンターから飛び出して出展します。

お越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

日時 ● 10月11日(土)

10:30~15:00

場所 ● 東海大学湘南キャンパス(平塚市北金目4-1-1)

お問い合わせ ● 平塚市協働推進課

電話:0463-21-9618



編集後記

この夏、平塚及び周辺地域でも津波警報や豪雨といった自然災害が身近に迫り、防災を“自分ごと”として考える機会が続きました。そんな今だからこそ、9月20日開催の防災座談会では、日頃からできる備えや、地域のつながりの大切さを皆様で話し合いたいと思います。身近な気づきやヒントを持ち帰っていただける場としたい、お気軽にご参加ください。(か)



編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00~22:00 年末年始、施設点検日を除く)

〒254-0045

神奈川県平塚市見附町 1-8

TEL ● 0463-31-7571 FAX ● 0463-35-6601

Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net

URL ● <http://hiratsuka-shimin.net>

センター登録団体数(2025年8月15日現在)

登録団体数 ● 456 団体

(内訳 市民活動団体…331 団体、一般団体…125 団体)



センターのマスコット
たすけちゃんとあいちゃん

